

履 歴 書

2000年0月0日

(ふりがな) 氏 名: つくばはなこ 筑波花子 性別: 女

生年月日: 1900年00月00日生(00歳)

国 籍: 日本

現住所: 茨城県00市00 1-2

学歴(大学以上):

- 2000年4月 00大学00学部00学科 入学
2000年3月 同 上 卒業
2000年4月 00大学00学部研究生 入学
2000年3月 同 上 終了
2000年4月 00大学大学院00研究科修士課程00専攻 入学
2000年3月 同 上 修了
2000年9月 Department of 00, Doctoral Program in 00, University of 00, UK 入学
2000年6月 同 上 修了
2000年4月 00大学大学院00研究科博士課程00専攻 入学
2000年3月 同 上 単位取得退学

学 位: 2000年0月 00博士(00大学) 又は 博士(00)(00大学) Ph.D.(00)(University of 00)

職 歴:

- 2000年0月~2000年0月 00大学00学部非常勤講師
2000年0月~2000年0月 (財)00研究所00研究部00室長
2000年0月~2000年0月 Lecturer at the Institute of 00, University of 00, UK
2000年0月~2000年0月 00大学00学部講師
2000年0月~現在 00大学00学部准教授

※本学在職の場合(例)

法人化前は「筑波大学助教授00学系」、法人化後(2004年4月から)は「国立大学法人筑波大学大学院00研究科助教授」、2007年4月からは職名が変更したため「助教授」は「准教授」、2011年10月からは「国立大学法人筑波大学00系准教授」とすること。

学会活動等:

- 2000年0月~ 現在 00学会会員
2000年0月~2000年0月 00学会評議員

受賞歴: 有・無

2000年0月0日 00学会00賞受賞

刑罰・処分歴: 有・無

2000年0月0日 停職0月(000のため)

上記のとおり相違ありません。記載内容に虚偽の記載があった場合には、採用取消や懲戒処分等の対象となり得ることについて了承します。

〇 〇 〇 〇
(自筆署名)

履歴書の記入要領

- 1 署名を除いて、ワープロソフト等で作成すること。（A4用紙を用いて、上下左右とも2cm程度の余白をとること。手書きの場合については、黒インク又は黒ボールペンを使用し、楷書体で記入すること。）
- 2 年号は西暦で記入すること。
- 3 研究業績等において通称名等を使用している場合の氏名については、戸籍名のほか、通称名等を併記してもよい。（例：筑波（水戸）花子又は水戸（戸籍:筑波）花子 等）
- 4 国籍は輸出管理手続に必要となるため、必ず記載すること。
- 5 学歴関係
 - ① 大学以上（高等専門学校^の学歴を有する者は高等専門学校以上）を記入すること。
 - ② 中途退学した場合は、「退学」と記入すること。
博士課程を単位取得の上退学した場合は、「単位取得退学」と記入すること。
 - ③ 外国の大学等の場合は英語で記入すること。
 - ④ 研究生等の経歴がある場合は、この欄に記入すること。
 - ⑤ 教員免許等の免許・資格を有する場合は、この欄の一番下に記入すること。
- 6 学位関係
 - ① 学位名の次に当該学位を授与した大学名を（ ）内に附記すること。
 - ② 博士の学位を有する場合は、修士の学位等の記入は省略することができる。
 - ③ 外国の大学等の学位は、Ph.D. in ○○, University of ○○のように種類・分野・授与機関を英語で明示すること。
- 7 職歴関係
 - ① 原則として、常勤の職歴のみとし、職名等を正確に記入すること。ただし、学歴と職歴を通じて空白となる期間があり、その間に非常勤等の職歴がある場合にはこれを記入すること。
 - ② 外国の機関等における職歴の場合は英語で記入すること。
- 8 学会活動等関係
本人の専攻、研究分野等に関連した学会活動、社会活動、等の事項について、主なもの3件以内を記載すること。
- 9 受賞歴
本人の専攻、研究分野等に関連した受賞歴について、主なもの3件以内を記載すること。
- 10 刑罰・処分歴
禁錮以上の刑（執行猶予を含む）に処せられたこと又は懲戒処分を受けたことがある場合は「有」を選択し、判決確定年月日等または懲戒処分年月日及びその内容を記載すること。

記入例

【研究業績に重点を置いた評価】

研究業績目録

氏名 ○ ○ ○ ○

2010年○月○日現在

著書

- 1) 筑波花子, 茨城太郎『○○に関する研究』○○出版社, 2014年, 330頁。
- 2) 筑波花子「○○に関する研究」(○○○研究会編『○○の分析』○○大学出版部, ○○～○○頁) 2013年。

査読付学術雑誌論文

- 1) 筑波花子「○○の考察」(『○○論文集』12巻3号), [印刷中]。
【証明書を添付すること】
- 2) Tsukuba Hanako, Taro Ibaraki, “Japan and China, 1900-1910,” *Journal of Asian Studies*, Vol. 2, No. 4, pp. 30-41, April 2013. (IF:3.272)

査読付国際会議論文

- 1) Tsukuba Hanako, “On the Disclosure of Diplomatic Records,” *Proceeding of 17th International Congress of East Asian History*, Macao, April 2012, 14 pages 【PDF版】。

その他 著書○件 査読付学術雑誌論文○件 査読付国際会議論文○件
ほか(○○等)○件

総説、翻訳等であっても研究業績とみなされないものについては含めないこと。

※Corresponding author である論文を明記すること。

※最新のインパクトファクターを記載すること。

「研究業績目録」の記入要領

【研究業績に重点を置いた評価】

- 1 署名を除いて、ワープロ等で作成すること。(A 4判用紙を用いて、上下左右とも 2 cm 程度の余白をとること。手書きの場合については、黒インク又は黒ボールペンを使用し、楷書体で記入すること。)
なお、外国籍の教員等で日本語による記入が困難な場合は、英語で記入すること。
- 2 年号は西暦で記入すること。
- 3 「研究業績目録」には、著書、原著論文等のほか、部局細則で定める研究業績(作品(芸術)、記録(スポーツ等)等)を含む。なお、研究業績の定義については部局毎に異なる場合があるため、予め提出先の組織に確認をすることが望ましい。
- 4 この「研究業績目録」のほかに、「研究業績」の全リスト(様式任意、参考様式を参照)を別途作成のうえ、提出すること。
- 5 「研究業績目録」には、最近 5 年間のものの中から、重要と思われる業績を合わせて 5 件(本学教員の昇任人事の場合は、現職就任時の審査に使用した業績を使用することはできない。)記載すること。
ただし、最近 5 年以前の研究業績であっても、候補者の業績の中で特に重要な位置付けができるものは 1 件に限り含めることができる。
- 6 著書は、著者リスト、著書名、発行所、頁、発表年の順に記載し、著者リストの本人の氏名に下線を施すこと。分担執筆の場合は、著書名の前に分担した章名等を記入すること。
- 7 学術論文は、著者リスト、論文名、雑誌名、巻、頁、発表年の順に記載し、本人の氏名に下線を施すこと。共著者が多数の場合は適宜省略し、何人の共著の何番目の著者か分かるようにすること。
- 8 印刷中のものは「印刷中」と明記したうえで記載できる。この場合には、発行者の刊行(出版)証明書、又は査読等を経て正式に受理されたことが証明できる書類を添付すること。(記入例を参照)
- 9 著書、学術論文以外で部局人事委員会が認める研究業績(作品(芸術)、記録(スポーツ等)等)を記載する場合は、種類を明示して記載し、作品名称、種類、発表年等を記載すること。
- 10 別記様式第 4(第 3 条関係)の「その他」の欄における研究業績の分類は、それぞれの組織の分類に従って記述してよい。
- 11 「記入例」について
記入例に厳密に従わなくとも、業績の特定ができ、かつ、その量及び発表時期が明記できていれば、それぞれの組織や研究分野の様式に従って記載してよい。

記入例

【研究業績に重点を置いた評価】

教育・実技・実務等業績目録

氏名 ○ ○ ○ ○

2010年○月○日現在

(実 績)

(期 間 等)

著作

筑波花子：章のタイトル. 講座用教材名（編者名），○○出版，○○～○○頁，2011

教育実践実績

[授業担当等] ※在職機関における教育活動を記載すること

○○大学○○学部○○学科（学群，学類）において

○○学概論 2単位 2008 ～ 現在

[委員会委員等]

○○大学学生担当教官室室員 2010 ～ 現在

[その他] ※在職機関以外における教育活動を記載すること

○○大学○○学部非常勤講師（「英文学」1単位） 2013 ～ 現在

社会的実績

○○県教育委員会生涯教育専門委員会委員 2009 ～ 現在

「教育・実技・実務等業績目録」の記入要領
【研究業績に重点を置いた評価】

- 1 署名を除いて、ワープロ等で作成すること。(A4判用紙を用いて、上下左右とも2cm程度の余白をとること。手書きの場合については、黒インク又は黒ボールペンを使用し、楷書体で記入すること。)なお、外国籍の教員等で日本語による記入が困難な場合は、英語で記入すること。
- 2 年号は西暦で記入すること。
- 3 「教育・実技・実務等業績目録」には、最近3年間の実績のうち主要なものを記載すること。
- 4 「実績」欄には、学術論文・著書以外の著作、教育実践、実技、実務、臨床、社会的業績等の項目を示し、その内容等を具体的に記載し、「期間等」欄には、実際に担当した期間、回数等を記載すること。
- 5 学術論文・著書以外の著作は、著者リスト、書名、発行所、頁、発表年の順に記載し、著者リストの本人の氏名に下線を施すこと。分担執筆の場合は、書名の前に分担した章名等を記入すること。
- 6 雑誌掲載の著作については、著者リスト、題名、雑誌名、巻、頁、発表年の順に記載し、本人の氏名に下線を施すこと。共著者が多数の場合は適宜省略し、何人の共著の何番目の著者か分かるようにすること。
- 7 「教育実践業績」については、次のとおり記載すること。
 - ① 「授業担当等」には、在職大学名、学部・学科(学群・学類)・大学院及びその他(公開講座、教員研修、卒後臨床研修指導等の担当)における一般教育及び専門教育の講義・演習・実習・セミナー等の担当のうちから、主要なものを選んでその担当単位数又は時間数を記載する。
 - ② 「委員会委員等」には、入試、カリキュラム、学生生活(厚生補導)、就職等の委員会委員、学生担当、クラス担任及び課外活動の指導等の教育関係の実績を記載する。
 - ③ 「その他」には、在職機関以外における教育関係の活動(非常勤講師等)を記載する。
- 8 「実技」、「実務」、「臨床」等については、教育業績に準じてその内容を具体的に記載する。
- 9 「社会的業績」については、委員会名等を在任期間の順に記載すること。
- 10 学生、教員、組織の長などによる授業評価を別添資料として付け加えてもよい。
- 11 学生指導実績等の記録、証拠等を別添資料として付け加えてもよい。
- 12 記入例(別紙のとおり)
業績の特定ができ、かつ、その量が明記できていれば、それぞれの組織や研究分野の様式に従って記載してよい。

教育・研究の計画及び抱負

氏名 （自筆署名） (西暦) 年 月 日現在

1. 教育について
2. 研究について
3. ○○センターについて ※センター等の業務がある場合

研究業績に重点を置いた評価，研究以外の業績に重点を置いた評価のいずれ場合も，「教育・研究の計画及び抱負」には，本学における教育，研究又はその他の任務等（管理運営，診療等において課せられる任務，又は主として研究若しくはセンター等における業務に従事する場合において課せられる任務等をいう。）のうちから，関係する項目を取り上げ，それらを充実させるための自らの計画及び抱負を自由に記載すること。

なお、外国籍の教員等で日本語による記入が困難な場合は、英語で記入すること。

外国籍の教員等で日本語による記入が困難な場合は、英語で記入すること。

参考様式
記入例

全 研 究 業 績 一 覧

氏 名 ○ ○ ○ ○ (記名可)

2010年○月○日現在

【記入上の注意】

- ・ 項目毎に最近のものから順に番号を付す。「研究業績目録」に記載したものは、当該業績の先頭に○印を記入。
- ・ 全研究業績一覧の作成にあたっては本記入例に従うことが望ましいが、研究業績に含まれる項目及び各業績の著者、頁数（○○頁、○○～○○頁）、発行所、発表誌、発表年（月）等が判別できれば、必ずしも本記入例に厳密に従わず、任意の様式を使用しても良い。
- ・ 氏名の体裁は掲載誌に準ずることが望ましいが、各候補者がデータベース等で研究業績を一律に管理している場合、全研究業績一覧の作成のために、氏名の体裁を掲載誌に合わせて修正する必要はない。

本記入例に記載した項目については例示であり、研究業績に該当しない項目を記載する必要はない。

1. 博士論文

「○○に関する研究」（○○大学大学院○○研究科）、2008年、200頁。

2. 著書

○1) 筑波花子、茨城太郎、「○○に関する研究」、○○出版社、2014年、330頁。

○2) 筑波花子、「第○章○○○」（○○編『○○○の研究』○○出版、○○～○○頁）、2010年。

○3) 筑波花子、「○○に関する研究」（○○○研究会編『○○の分析』○○大学出版部、○○～○○頁）2013年。

3. 査読付学術雑誌論文

○1) 筑波花子、「○○の考察」、○○学会論文集、12巻3号、 [印刷中]。

○2) Hanako Tsukuba, Taro Ibaraki, “Japan and China, 1900-1910,” *Journal of Asian Studies*, Vol. 2, No. 4, pp. 30-41, April 2013.

4. 査読付国際会議論文

- 1) Hanako Tsukuba, “On the Disclosure of Diplomatic Records,” *Proceeding of 17th International Congress of East Asian History*, Macao, April 2012, 14 pages 【PDF 版】.

5. 外部資金獲得状況 ※代表で獲得した外部資金を記載すること。

代表

- 1) 平成26年度～平成28年度 科学研究費補助金 (基盤研究 B)
「〇〇の研究」
1,500 万円 (うち直接経費 1,154 万円)
- 2) 平成23年度～平成25年度 科学研究費補助金 (基盤研究 C)
「〇〇に関する研究」
299 万円 (うち直接経費 230 万円)

[査読無学術雑誌論文]

- 1) 茨城太郎、筑波花子、「〇〇について」、〇〇大学文学部『〇〇紀要』16 集、120～145 頁、2013 年 10 月。

[査読無国際会議論文]

- 1) …

[招待講演等]

- 1) 「〇〇について」(〇〇学会第 3 回年次大会基調講演)、2014 年 3 月、〇〇大学
- 2) 「〇〇の研究」(〇〇学会第 24 回総会招待講演)、2013 年 8 月、〇〇研究所

[外部資金獲得状況]

※分担等で獲得した外部資金の記載は原則として不要である。それでもなお記載する場合は次の例に従うこと。

分担

- 1) 平成22年度～平成24年度 科学研究費補助金 (基盤研究 A)
「〇〇について」
分担、195 万円 (うち直接経費 150 万円)
代表：〇〇〇〇 総額 3,000 万円